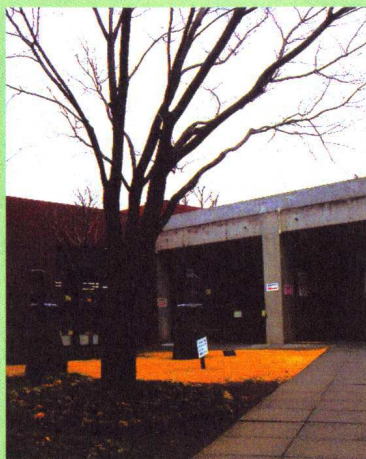


大宮東図書館

小さくても力持ち

東武野田線大和田駅からのんびり歩いて15分、見沼区役所や大宮武道館など人の集まる施設に囲まれて、大宮東図書館があります。広さは約500㎡、蔵書数は9万冊ほどのこじんまりとした図書館ですが、便利な立地もあって、土日ともなれば通路がちよつと窮屈なくらいにぎわっています。最近では、市内の図書館ネットワークの窓口として上手に利用されているようです。



地域の広場として

平成4年6月の開館時より、地域の方に育まれてきました。

開館当初から開催している折紙教室は、ひなまつり・七夕・クリスマスなどの季節ごとの恒例行事として親しまれています。毎月第2・4木曜日には「えほんの会」もあります。

また、地域の方のご協力を得て、お正月に開催している「日本の風展」は、館内が全国の珍しい風でいっぱいになります。子どもたちはもちろん、郷里の風を見つけて懐かしむ方の姿もありました。



季節を楽しむ

春の大宮東図書館はお花見にもおすすめです。図書館脇の広場や、隣の大宮武道館にも、また閲覧席から外を眺めれば、彫刻を配した「図書館の庭」にも桜が見られます。これからは新緑の季節。図書館で借りた本を片手に、木陰の読書を楽しんでみてはいかがでしょう。

(所在地)

見沼区堀崎町48-1



としよかん
探偵事務所

ちまきと 柏餅のお話

Q 端午の節句に「ちまき」や「柏餅」を食べるのはなぜ？

A 百科事典や食べ物辞典を調べてみました。

○「ちまき(粽)」について…『続齊諧記』によると、

「楚の詩人の屈原が五月五日に汨羅(現在の中国湖南省)の淵に身を投げたので、人々はこの霊を慰めるため、毎年竹筒に米を詰めて水に投げ入れた。

漢の武帝の時、汨羅のほとりに屈原が現れて『毎年人々が祭ってくれるが、すべて龍に盗まれてしまう。これからは棟の葉で包んで五色の糸で縛ってほしい。この二つは龍が怖がるものだから』と言った。」

とあります。この故事から、中国では粽を親戚に配り、この習いが日本に伝わって端午の節句に粽を食べるようになりました。

○「柏餅」について…カシワの葉は、夏の新葉が出たあとに古い葉が落ちるので、子どもが家を継ぎ代々栄えるようにという縁起を担いでいます。そのため、カシワの葉で包んだ餅＝柏餅を食べるようになりました。

このことから、端午の節句に粽や柏餅を食べるのは、健康祈願、難を避ける、子孫繁栄の願いが込められているためということが分かります。

〈参考文献〉『日本大百科全書』小学館、『たべもの語源辞典』東京堂出版、『食材図典Ⅲ 地産食材篇』小学館、『中国の名詩2』滄浪のうた 屈原 平凡社

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

http://www.lib.city.saitama.jp/ 携帯電話用 http://www.lib.city.saitama.jp/m/ (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	桜木図書館 649-5871	春野図書館 687-8301	与野南図書館 855-3735
南浦和図書館 862-8568	大宮西部図書館 664-4946	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200
桜図書館 858-9090	北図書館 669-6111	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665
大久保東分館 853-7100	宮原図書館 662-5401	与野図書館 853-7816	
大宮図書館 643-3701	馬宮図書館 625-8831	西分館 854-8636	

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集委員より★★ 新緑が鮮やかな季節になりました。少し足をのばしていつもより遠くの図書館に行ってみませんか？普段利用している図書館とは違う、新しい発見があるかもしれません。

